

農林水産統計観測審議会農林水産統計部会農作物生産量統計小委員会議事要旨

- 1 日 時 平成12年3月30日(木)13時30分～15時
- 2 場 所 農林水産省第2特別会議室
- 3 出席者 【小委員会委員】
秋田 重誠 鵜飼 保雄 国定 正俊 畑中 孝晴
宮崎 礼子
【事務局】
森田生産統計課長 須賀原生産統計課総括課長補佐ほか
- 4 議 題
平成12～14年産水稻10a当たり平年収量について

5 議事概要

本日の小委員会については、農林水産統計観測審議会農林水産統計部会運営内規第7条第1項に基づき非公開とし、議事録については農林水産統計観測審議会農林水産統計部会運営内規第10条第2項及び第3項に基づき非公開として議事要旨を公開することとした。

- (1) 事務局より、「平成12～14年産水稻10a当たり平年収量について」資料に基づき説明を行った。
- (2) 審議の結果、事務局の提案に対し、「妥当である旨農林水産統計部会に報告する」ことでの了承された。

(主な質疑応答)

委員： 平年収量の上昇要因に品種構成の変化をあげているが、品種の動きが必ずしも多収とはなっていないのではないか。

事務局： 東日本では品種構成の変化により収量水準が下がっている県があるが、西日本では、良食味で多収品種のヒノヒカリの作付けが増加している県が多いため全国的には収量水準は上昇している。

委員： 品種構成に大きな変化がない長野県では、栽培技術の向上の他に平年収量が上がる要因はあるのか。

事務局： 水稻の作付面積の減少に伴い、低収量地への作付けが減少していることが考えられる。

委員： 平年収量の上昇要因に水稻作付けの早期化をあげているが、これは、麦作等の作付けが減っていることに伴うものと考えてよいのか。もしそうであるなら、政策的に麦作を本作にし、拡大しようとしている方針との関連はどうか。

事務局： 水稻の早期作付けは、北関東では裏作麦の廃止に伴って進んできたと思われるが、全国的にみれば裏作を行っていないほ場で行われているものが主であり、必ずしも他の作物の作付けが減少することにはならないと考えている。

麦等の作物は農水省としても様々な施策を講じていく予定であり、今後は麦作等の動向も加味しながら平年収量の検討を行っていききたい。

委員： 今回決定する平年収量は、3年間適用することになるが、温暖化等の進行が指摘されるなかにおいて、近年の気象変動が小さいものの、これから先、安定した気象が続くのか心配な面もある。

事務局： 気象については、気象庁等より関連情報収集に努め、気象の変化に注視をしていきたい。また、品種構成や栽培技術など気象以外の生産事情についても同様に毎年確認を行うこととし適切な平年収量の作成に努めたい。